

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 8 月 17 日

【評価実施概要】

事業所番号	4071201265		
法人名	株式会社 サワライズ		
事業所名	グループホーム あたご桜花		
所在地	福岡市西区愛宕2丁目19-6 〒819-0015 (電話) 092-881-7008		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年8月6日	評価確定日	平成21年9月10日

【情報提供票より】(平成 21 年 7 月 20 日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 17 年 5 月 1 日		
ユニット数	2ユニット	利用定員数計	18人
職員数	16人	常勤	16人 非常勤 0人 常勤換算 15.4人

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	2階建ての～		1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000～51,000 円	その他の経費(月額)	33,000 円	
敷金	有(135,000 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有(円)	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,600 円程度	

(4) 利用者の概要(7月20日現在)

登録人数	18名	男性	6名	女性	12名
要介護1	6名	要介護2	5名		
要介護3	5名	要介護4	2名		
要介護5	0名				
要支援1	0名	要支援2	0名		
年齢	平均 88.7 歳	最低	78 歳	最高	99 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	早良病院	武田内科	近藤歯科医院
---------	------	------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

玄関横の花壇では、日よけの朝顔が涼しげに蔓を伸ばしており、リビングに下げられたテルテル坊主や中庭に干された洗濯物など、日常の何気ない光景にホッと心癒されるホームである。家庭的で落ち着いた静かな環境の中で、利用者のペースにあわせて「待つ・見守る」ことを実践し、一人ひとりの利用者に合わせて行き届いたケアが行われている。利用者から様々なことを教わることで利用者の持つ力に感動したり、昔の生活の様子から効率的にできる方法や知識を学ぶなど、利用者からの学びは職員にとって貴重な財産となっている。法人母体が病院であり、医療面でのサポートや職員へのバックアップ、緊急時の連携など、利用者・家族にとって大きな安心感となっている。地域活動へも積極的に取り組み、今後の発展が期待されるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の結果については、全職員に報告を行い、地域との連携を一層意識した取組みや人権研修、バスハイクへの取組み等、質の向上への取組みがある。
重点項目	今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)
	今回の受審にあたり、ユニット毎に職員が協議して自己評価に取組む等、全職員がかかわった取組みがある。
重点項目	運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)
	民生委員、町内会長、町内会副会長、老人クラブ会長、地域包括支援センター職員、看護協会の保健師などの参加により2ヶ月毎の開催がある。事業所からの様々な報告の他に、外部評価結果についての報告、避難訓練への見学の誘い、認知症高齢者の方への対応や相談などの意見交換が行われている。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	週に1～2回の割合で家族の面会があり、その際に時間をとって面談を行っている。家族面会時以外にも、その都度の電話連絡、年4回の“たより”の発行などを通じて、様々な報告と家族の希望や思いの表出に努めている。表出された希望等は、職員間で協議し、介護計画書に反映させるなどの取組みがある。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域清掃活動や廃品回収の手伝い、日々の散歩、買物、近くのコンビニへのお出かけ、地域夏祭りへの参加、幼稚園児との相互交流など、日常の中でのかかわりを通じた地域交流が行われている。

2. 調査報告(詳細)

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続ける ことを支えていくサービスとして、事業 所独自の理念をつくりあげている	2年前に理念の検討を行うも、開設当初か ら、地域を意識した理念を作成しており、住み 慣れた地域の中での生活を意識した内容となっ ているため、変更は行っていない。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の 実践に向けて日々取り組んでいる	玄関ホールに理念が提示されており、自然と 目につく工夫がある。月1回のミーティング時 に理念に向き合うことで、各職員が理念に対し ての意識を喚起する取組みに繋がっている。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員と して、自治会、老人会、行事等、地域活 動に参加し、地元の人々と交流すること に努めている	地域清掃活動や廃品回収の手伝い、日々の散 歩、買物、近くのコンビニへのお出かけ、地域 夏祭りへの参加、幼稚園児との相互交流など、 日常の中でのかかわりを通じた地域交流が行わ れている。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及 び外部評価を実施する意義を理解し、評 価を活かして具体的な改善に取り組んで いる	前回の結果については、全職員に報告を行 い、地域との連携に一層意識して取組むなどの 取組みがある。今回の受審にあたり、ユニット 毎に職員が協議して自己評価に取り組む等、全 職員がかかわった取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について 報告や話し合いを行い、そこでの意見を サービス向上に活かしている	関係者が集っての2ヶ月毎の開催がある。事 業所からの様々な報告の他に、外部評価結果に ついての報告、避難訓練への見学の誘い、認知 症高齢者の方への対応や相談などの意見交換が 行われている。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会 議以外にも行き来する機会をつくり、市 町村とともにサービスの質の向上に取り 組んでいる	運営推進会議に、地域包括支援センターの職 員や区役所職員の参加がある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事 業や成年後見制度について学ぶ機会を持 ち、個々の必要性を関係者と話し合い、 必要な人にはそれらを活用できるよう支 援している	成年後見制度を利用している利用者、申請中 の利用者がいるなど、制度の活用の継続的な支 援を通して職員は学びを得ている。すでに家族 の中での制度に対する理解度は高いが、契約時 に必要なと思われる家族に対して説明を行うなど の取組みがある。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康 状態、金銭管理、職員の異動等につい て、家族等に定期的及び個々にあわせた 報告をしている	週に1～2回の割合で家族の面会があり、そ の際時間をとって面談を行っている。家族面会 時以外にも、その都度の電話連絡、年4回の “たより”の発行などを通じて、様々な報告が 行われている。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や 職員ならびに外部者へ表せる機会を設 け、それらを運営に反映させている	家族面会時に時間をとっての面談や介護計画 書の説明時、その都度の電話連絡、“たより” の発行、家族記入による情報シートなどを通じ て、家族の希望や思いの表出に努めている。表 出された希望等は、職員間で協議し、介護計画 書に反映させるなどの取組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職 員による支援を受けられるように、異動 や離職を必要最小限に抑える努力をし、 代わる場合は、利用者へのダメージを防 ぐ配慮をしている	新しい職員が慣れるまでは余裕を持たせた職 員体制をとっている。入職後1ヶ月を目途に一 人で日勤帯の業務が出来る事を目標としてい る。また、3ヵ月目までは夜勤は2人体制をと り、利用者との信頼関係が築けてから1人勤務 となるなど、利用者の精神面を配慮した取組み がある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	<p>人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>職員の募集・採用に関しては、何ら制限を付けていない。ホームとしての募集・採用である。無資格の職員がホームで経験を積み、ヘルパー2級～介護福祉士の資格を取得するなど、資格取得に向けての支援体制がある。また、茶道を趣味とする職員に行事時に披露してもらうなど、職員の得意分野を活かす配慮がある。</p>		
12	20 追加	<p>人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>各種研修の中で行われる人権研修への参加、及びミーティング時の研修報告会を通じて、職員の人権意識啓発への取り組みがある。</p>		<p>人権に関する各種ビデオ研修を計画されているようです。この計画を实践され、幅広い視点での人権についての勉強会への定期的・計画的な取り組みにより、更なる、職員の人権意識の喚起に努められることを期待します。</p>
13 (10)	21 (19)	<p>職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>各種研修の情報を提供して希望を募ったり、職員の経験や習熟度に応じて外部研修へ参加させるなど、研修への参加の機会がある。また、母体病院で行われる研修への参加、ミーティング時を利用した報告会を兼ねた勉強会の開催がある。</p>		
14 (11)	22 (20)	<p>同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>近隣同業者間での連携・交流の計画を立案したものの、実行できていない。</p>		<p>再度、近隣同業者間の相互訪問や交流を計画・実践され、質の向上に向けての情報交換を行ったり、職員個々の気づきやモチベーションをあげる機会となるような取り組みを期待します。</p>

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	介護相談からかわり、ホーム見学、併設のデイサービス利用、家族からの情報の詳細な把握などを通じて、入居後の生活に馴染めるような取組みがある。新しい利用者には、場所の認識から始め、職員が密にかかわるなど、精神的安定への配慮がある。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々のかかりを通じて精神的な部分で感じ、学ぼうとする姿勢が伺える。利用者から職員へ、体調を気づかう言葉かけやねぎらいの言葉かけが自然に行われるなど、支えあう関係が構築されている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	家族面会時の面談や家族の記入による情報シートにより家族の希望を把握し、日々のかかりを通じて利用者の思いの把握に努めている。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	担当職員を中心に、家族面会時や日々のかかりを通じた利用者・家族の希望や思いを把握し、ミーティング時に他の職員と協議しての介護計画書の作成がある。介護計画書の内容は、利用者の有する能力に着目した内容となっている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	入居後、1ヶ月・3ヶ月・6ヶ月・12ヶ月毎、 及び状態変化に伴う見直しが行われている。ま た、月に1度のミーティング時に、全利用者に ついての情報交換や現状の確認が継続的に行わ れている。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	近隣住民からの介護相談への対応、他事業所 のケアマネジャーや地域住民参加による勉強会 の開催、自宅訪問やその都度の利用者希望によ る散歩・ドライブなどの個別支援の継続、全利 用者参加のバスハイクなど、柔軟な対応が行わ れている。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	ホーム協力医及び利用者の今までのかかりつ け医による往診や家族対応による定期受診、皮 膚科・歯科・精神科の医師との連携を図るな ど、適切な医療受診への配慮がある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	入居時に、ホームとしての指針と体制、及び 母体である病院との連携を説明している。日々 のかかわりを通じて、利用者の意向の把握がな されているも、キーパーソンとなるご家族の意 向の把握はこれからである。		重度化や終末期における、再度の全利用者 の意向の確認とキーパーソンとなるご家族の 意向の確認を行っていただき、把握された意 向等についての職員間での情報共有に努めら れ、利用者・家族の意向に沿った支援への取 組みを期待します。

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	言葉使いについては、馴れ合いにならないよ うに、勉強会での働きかけやその都度の指導等 が行われている。職員は常に「自分だったら」 という気持ちを持ち、視線の高さ、傾聴の姿 勢、言葉かけの仕方などから、利用者の立場に たった節度ある接し方への配慮が伺えた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	ホームとしての基本的な流れはあるものの、 食事をはじめのタイミングや食事にかかる時 間、日中の過ごし方など、利用者一人ひとりの 希望やペースを尊重した対応が見受けられた。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	ホームの畑で収穫した野菜を調理したり、食 事の準備や後片付けなど、食事を活動の場の一 つとして取り組んでいる。メニューは利用者の希 望を取り入れて作成されており、利用者の状況 に応じてお粥やトロミをつけるなど、食事その ものを楽しめるような配慮がある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミン グに合わせて、入浴を楽しめるように支 援している	午後から夕方までの間で一日おきの入浴であ るが、準備は毎日されているため、希望により 毎日の入浴や同姓介助が可能である。また、皮 膚科医師の指示のもと、入浴後の軟膏等の使用 が徹底されるなど、清潔保持の機会の確保と皮 膚状態の改善への取り組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	利用者の希望に沿った買物や散歩への対応、 新聞読み、縫い物や習字、お話しなどの楽しみ への支援が行われている。また、役割として、 畑での収穫、食事の下ごしらえ、配膳、仏壇の 水換えなど、介護計画書に取り入れての支援が ある。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	利用者の希望にそったその都度の買物や朝夕 の散歩、季節毎の花の観賞、バスバイクなど、 外に出る機会を見つけての支援がある。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は開錠している。各ユニットの玄関ホー ルにセンサーを設置しており、職員は利用者の 表情・様子を観察しながら、声かけや見守り、 一緒に出かけるなど、利用者の自由な暮らしと 安全を支える取組みがある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身に つけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	年に2回、避難訓練を実施している。運営推 進会議時等を通じて地域の方々への働きかけを 行い、地域の方々の見学が見られるなど、地域 の協力を得るための取組みがある。		今後、大規模災害等を想定した自治会との 協力体制について、運営推進会議時に協議を 行っていくなど、自治会との連携・協力体制 等についての取組みを期待します。
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひとり の状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の希望や畑で収穫した野菜を取り入 れ、栄養価やバランスを考慮した献立の作成で ある。利用者の食習慣への対応、お粥・トロミ などの利用者の状態に応じた支援が行われてい る。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関横の花壇では、日よけの朝顔が涼しげに 蔓を伸ばしており、リビングに下げられたテル テル坊主や中庭に干された洗濯物など、日常の 何気ない光景にホッと心癒される。思い思いの 場所で、ゆったりと寛ぐ利用者の姿が心地よさ げであった。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	利用者・家族が相談して、箆笥や椅子、鏡 台、ベッド、写真等、利用者にとって馴染みの 物が持ち込まれ、居心地良く過ごせる場所と なっていた。		

 は、重点項目。
(数字)は、国の標準例による番号